

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079800191
法人名	社会福祉法人 福智会
事業所名	グループホーム ふくち
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4 193-28 (電話) 0947-22-2101

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 6月 21日
評価確定日	20年 8月 7日

【情報提供票より】 (平成20年 6月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 12人 非常勤 0人 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 6月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川慈恵病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山々に囲まれた豊かな自然の中に位置し、母体施設である特別養護老人ホームに隣接する木造平屋建て2ユニットの事業所である。木の温もりを重視した造りであり、ゆったりと落ち着ける雰囲気を感じられる。敷地内には家庭菜園があり、四季折々の野菜を利用者とともに育て収穫している。事業所は、日々の生活の中で、利用者一人ひとりの「尊厳」「権利」を尊重しながら、利用者が持つ力を最大限引き出すことが出来るよう、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めるなど、事業所の掲げる運営理念の実践のために取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題であった「重度化や終末期のあり方」について家族と話し合い、対応方針の明確化を行い、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について職員会議で全員で話し合い、意見を聴取し管理者がそれを集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の現状や活動計画及び外部評価等の報告を行っている。その中で家族会のあり方について等、会議で出された意見を受け、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会、意見箱を設置し、家族の来訪時に主任が意見等を聴き取るよう声かけに努めている。また、年に1回家族アンケートを取っており、ウッドデッキの活用方法や居室のたんすの整理の仕方について等、出された意見を受け止め、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	慰問やボランティア、地域の獅子舞や山笠等を受け入れており、また、地域の清掃活動や運動会への見学などに出向き、地域との交流を図っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作っており、地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝朝礼時に理念の唱和を行っている。また、日々の業務の中で理念の実践に向けて、言葉かけなどや日々のケアのあり方について意見の統一が図られている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	慰問やボランティア、地域の獅子舞や山笠等を受け入れており、また、地域の清掃活動や運動会への見学などに出向き、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議で全員で話し合いを行い、管理者がそれを集約している。前回評価の課題について「重度化や終末期のあり方」について家族と話し合い、対応方針の明確化を行い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の現状や活動計画及び外部評価等の報告を行っている。その中で家族会のあり方について等、会議で出された意見を受け、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター、事業所で構成された「サポーター会議」に出席しており、事業所から行政に対しての働きかけを行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は制度に関する研修で学ぶ機会があるが、利用者・家族等への説明は特に行っていない。	○	制度に関して利用者や家族へ継続的に説明を行う機会を持ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月に1度の事業所便りの発行に併せて、写真や金銭の収支明細、利用者本人から家族へ向けた手紙等を家族へ送付している。また、緊急時には受診前と後に連絡を入れるなど、状況報告を密に行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、意見箱を設置し、家族の来訪時に主任が意見等を聴き取るよう声かけに努めている。また、年に1回家族アンケートを取っており、ウッドデッキの活用方法や居室のたんすの整理の仕方について等、出された意見を受け止め、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、年に2回、職員一人ひとりと面談を行い、意見を聴く機会を設けている。職員が離職等で交代する時には、引継ぎの期間を十分にとるよう配慮を行っている。また、職員は、日常的に2つのユニットの入居者全員の状態把握に努め、馴染みの関係を築いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、教育訓練、資格取得等、事業所は職員の自己実現のための支援を行っている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>運営者は、人権教育に関する研修を内部研修で行っており、また日常的においても人権の尊重を重んじるよう、全職員への啓発を行っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人に3つの委員会が設置されており、トレーニングの機会が与えられている。また、管理者や職員の段階に応じて研修の機会を確保し、職員は、職員会議の場で研修の報告を行っている。運営者は、職員に個人目標を掲げさせ、目標に向けてのスキルアップを行うようトレーニングしていくことを進めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>行政主催の町内12事業所の同業者連絡会が発足し、それに参加し他の事業所との交流を図っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>必要に応じて、利用開始前の見学の受け入れや職員による訪問等を行っている。やむを得ず、即利用になった場合、職員は、利用者の生活歴や過去の体験を理解するよう心がけ、安心できるような声かけや対応を工夫しながら行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の過去の生活歴等を参考に得意分野を把握し、それをもとに役割や楽しみごとなどで利用者の持つ力を最大限に発揮してもらいながら、職員と利用者が共に支えあい、協働しながら日々の生活を送ることができるような関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から利用者の生活歴を聴取し、言葉や表情、態度から本人の思いや希望をくみ取るようにしている。認知症のアセスメントシートを作成し本人の意向にそった支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーは一人ひとりに即した介護計画を作成するため、本人や家族の訪問時、職員の気づきや意見を聴くなどきめ細かく情報収集し、介護計画を作成しカンファレンスで検討している。介護計画には、家族の同意と捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回、定期的に見直している。状態変化時はその都度見直しており、現状に即した介護計画を作成し、家族には電話で報告し、職員にも朝・夕礼時に伝達している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医療機関への送迎支援や本人・家族の希望する医療機関とも連携をとり送迎するなど、柔軟に対応している。利用者の入院時には見舞いに行ったり、医療機関や家族と連携をとるなど、早期退院に向けて取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族希望のかかりつけ医の受診を支援している。また、適切な医療を受けるために本人・家族の同意のうえ、医療機関から添書をもって、協力医療機関を受診することもある。病状の経過については家族に電話で報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の支援方法について、事業所の対応方針は利用時に家族に説明している。また、終末期におよんで事業所として、最大限どこまで支援できるかを職員、家族、医療機関と話しあいながら段階的に対応している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応についてはさりげない介助を心がけている。年2回、言葉かけについてアンケートで自己評価を行い、またカンファレンスや専門委員会でも検討している。管理者は日常の生活の中で、言葉遣いや対応についてその都度注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れはあるが、その日の利用者の要望、体調にそって買い物・散歩・生花・湯治・編み物等、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に談笑しながら食事の準備と後片付けをしている。食事時は利用者、職員が同席し同じ内容の食事をとっている。食事時は会話が弾み楽しい雰囲気になっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、利用者の希望に応じ入浴の支援をしている。入浴拒否の利用者には気分に応じて適切な言葉かけをしながら入浴支援し、清潔の保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、趣味を活かした野菜作り、編み物、料理、らっきょ漬け、干し柿づくり、手工芸、パズル、韓流ドラマ鑑賞など、それぞれの役割を活かし楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出支援をしており、天気や利用者の希望、体調に応じて毎日の朝・夕の散歩をしている。花摘みやしいのみ拾い、法人が持つ旧農家風の別荘に向いたり、ショッピングや季節のバスハイクなど、一人ひとりの希望に応じ対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口は2ヶ所で、日中は施錠していない。玄関にはチャイムが設置されている。外出傾向のある利用者は、見守りをしている。隣接する併設施設へ見守りや声かけを依頼している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月毎に消防防災訓練を行っており、その内年1回は、消防署立ち会いのもと、併施設と共同での消防総合訓練を行っている。災害対策のマニュアルがある。近隣は民家がなく非常時はサイレンをならし地域の協力を得るようにしている。非常食・飲料水・備品がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立のメニューは管理栄養士が1ヶ月に1回、利用者や職員の要望を聞き作成している。水分摂取量、栄養摂取総量も管理され、その記録もある。利用者の誕生会等には、特別に工夫された献立になっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットの中庭にはウッドデッキがあり、廊下にはくつろげるようソファ、玄関先にはベンチをしつらえている。不快な音や声もなく、換気も留意され、明るく家庭的な雰囲気居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には馴染みの調度品、テレビ、家族の写真、小物、仏壇などが持ち込まれ、その人らしい装飾がされており、利用者それぞれの個性があり、落ち着いた居心地のよい雰囲気となっている。</p>		

※ は、重点項目。